



前田 留里

特定非営利活動法人
京都ワーキング・サバイバー

2011年に乳がん罹患し、休職せずに手術、抗がん剤、放射線、ホルモン治療を行う。同じ年代の方や情報に出会えず苦労した経験から2015年に京都ワーキング・サバイバーを社会保険労務士と共に立ち上げ、その後キャリアコンサルタント、産業カウンセラー資格を取得。現在、医療法人職員として人間ドックやがん相談などを担当しながら、立命館大学院 人間科学研究科で対人援助学を学んでいる。



横田 知哉

静岡県立静岡がんセンター
消化器内科/J-SUPPORT

1998年京都府立医科大学医学部卒、2004年同大学院博士課程修了、医学博士。2005年米国MDアンダーソンがんセンター、2008年愛知県がんセンター中央病院薬物療法部。2011年より現職。がん薬物療法専門医・指導医として頭頸部・消化器領域のがん薬物療法に従事する中で、頭頸部癌領域の支持療法に関する数多くの臨床研究に取り組む。J-SUPPORT 1602の研究事務局、AMED革新的がん医療実用化研究事業「支持/緩和治療領域研究の方法論確立に関する研究」の粘膜炎（口腔粘膜炎）ワーキング・グループ長を務める。



富永 都子

静岡県立静岡がんセンター
放射線・陽子線治療センター
がん放射線療法看護認定看護師

社会人を経て看護専門学校に入学。静岡がんセンター開院時より頭頸部・食道病棟に勤務し、手術療法や化学放射線療法を受ける患者に接してきた。放射線治療を受ける患者の増加に伴い、放射線治療に関する専門的知識や技術が必要であると実感し、2011年がん放射線療法看護認定看護師取得。現在は放射線・陽子線治療センターに勤務し、院内外で放射線治療に関する研修等の講師も務めている。



全田 貞幹

国立がん研究センター東病院
放射線治療科、支持・緩和研究
開発支援室/J-SUPPORT

2000年防衛医科大学校卒、2014年東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了、医学博士。2006年から国立がん研究センター東病院放射線治療科勤務。2020年より支持・緩和研究開発支援室室長を兼務。2015年より国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門を兼務し、2019年より領域Ⅱ（支持/緩和領域）チーフディレクターを務める。専門は放射線治療、頭頸部がん、支持療法。



野田 真由美

特定非営利活動法人
支えあう会「α」

40歳で乳がん罹患。当時、一般家庭にも普及しはじめたインターネットを使いがん情報や仲間を探す。直後に父親に膵がんが見つかり1年弱の闘病をキーパーソンとして支えた。患者としてのがん体験と家族としてのがん体験をWebサイトで公開。2001年、千葉県患者会に声をかけられスタッフとして参加。患者・家族の支援活動を中心にピアサポーター養成や、がん患者・家族の声を届ける活動を続けている。



野田 真記子

特定非営利活動法人
がんサポートかごしま

2005年子宮頸がん、2012年乳がん罹患。全部位の患者会「がんサポートかごしま」と出会い、患者会に携わるようになる。現在、ピアサポーターとして患者サロンの運営や小中高校生に伝えるがん教育「いのちの授業」の外部講師として活動している。